

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行について（警報）

平成28年3月16日（水） 15:00

北海道釧路総合振興局保健環境部

保健行政室（釧路保健所）

TEL 0154-22-1233 FAX 0154-22-1273

道では感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律に基づき感染症発生動向調査を実施しておりますが、平成28年第10週（平成28年3月7日～平成28年3月13日）において、当保健所管内の定点当たりのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者報告数は、警報基準である8人以上となりましたので、蔓延を防止するため警報を発令します。

今後、流行がさらに拡大する可能性がありますので、感染予防に努めるようお願いいたします。

記

1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは、高熱・咽頭痛・おう吐を主症状とする細菌性の感染症です。典型的には、2～5日の潜伏期間の後、突然38度以上の発熱、咽頭痛、リンパ節の腫れ、おう吐などが見られます。熱は3～5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善します。

まれに重症化し、喉や舌、全身に発赤が広がる「猩紅熱（しょうこうねつ）」に移行することがあります。合併症には肺炎、髄膜炎、敗血症、リウマチ熱、急性糸球体腎炎などがあります。

2 原因と感染経路

A群溶血性レンサ球菌が原因です。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎にかかった人のせきやくしゃみ、つばなどのしぶきに含まれる細菌によって感染します（飛まつ感染）。また、排出された細菌が手などを介し、口に入ることで感染します（経口感染）。

3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の感染予防

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の予防には、手洗い・うがいやマスクの着用等が有効です。

咽頭痛がある場合には早めに医療機関等を受診し、溶血性レンサ球菌の感染を確認する検査を受けましょう。

4 その他

（1）最近5週における定点医療機関からのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者報告状況

（表示は、「報告数（患者／定点）」単位：人）

| 区分 | 第6週 (2/8～2/14) | 第7週 (2/15～2/21) | 第8週 (2/22～2/28) | 第9週 (2/29～3/6) | 第10週 (3/7～3/13) |
|-------|-------------------|--------------------|--------------------|-------------------|--------------------|
| 釧路保健所 | 24 (3.43) | 37 (5.29) | 47 (6.71) | 55 (7.86) | 58 (8.79) |
| 全道 | 803 (5.65) | 862 (6.07) | 851 (5.99) | 803 (5.65) | (-) |
| 全国 | 10472 (3.31) | 10348 (3.27) | 10184 (3.22) | 9435 (2.99) | (-) |

* 第10週の患者報告数は速報値。

* 全道の流行状況については、北海道立衛生研究所北海道感染症情報センターホームページでご覧になれます。（<http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/index.html>）

（2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報とは

厚生労働省の感染症発生動向調査により把握した、全道の定点医療機関を受診したA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者数が、国立感染症研究所において設定した警報レベルの基準値に達したときに発令し、大きな流行の発生や継続が疑われることを指します。

〈A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の警報レベル〉

| | 開始基準値 | 終息基準値 |
|--------------|-------|-------|
| 定点当たりの患者数（人） | 8 | 4 |